

L 文化ホール施設の実態・課題

■ 施設概要

大型の文化ホール施設として、町田市民ホールと鶴川緑の交流館の 2 施設を保有しています。なお、鶴川緑の交流館は、ネーミングライツ制度を導入しており、スポンサー事業者が施設名（和光大学ポプリホール鶴川）の権利を保有しています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
町田中心		町田市民ホール	6,651	1972	
鶴川	◎	鶴川緑の交流館 (和光大学ポプリホール鶴川)	5,979	2012	鶴川駅前連絡所 鶴川駅前図書館

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 町田駅、鶴川駅の駅至近に配置されている。
- 〔建物〕 ・ 町田市民ホールは築 30 年以上を経過している。
- 〔機能〕 ・ 施設にはホール以外にも練習室や展示室、エクササイズルームなどの機能がある。
- 〔利用〕 ・ 2 施設ともにホールの利用率は高いが、一部の部屋の利用率が低い。
- 〔運営〕 ・ 文化ホール施設は 2 施設ともに指定管理者により運営している。
- 〔コスト〕 ・ 文化ホール施設 2 施設の行政費用は年間 2 億円超である。

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 条例により設置しているものであり、法的に設置が義務付けられているものではない。

設置目的との整合性

- ・ 文化の向上や福祉の増進、市民活動の推進という点で整合している。

利用状況の妥当性

- ・ ホールの利用率は高いが、その他の部屋の利用率は高くない。

施設の代替性

- ・ 市民フォーラムや生涯学習センター、市民センター等にも小規模なホールがある。

〔現状・課題のまとめ〕

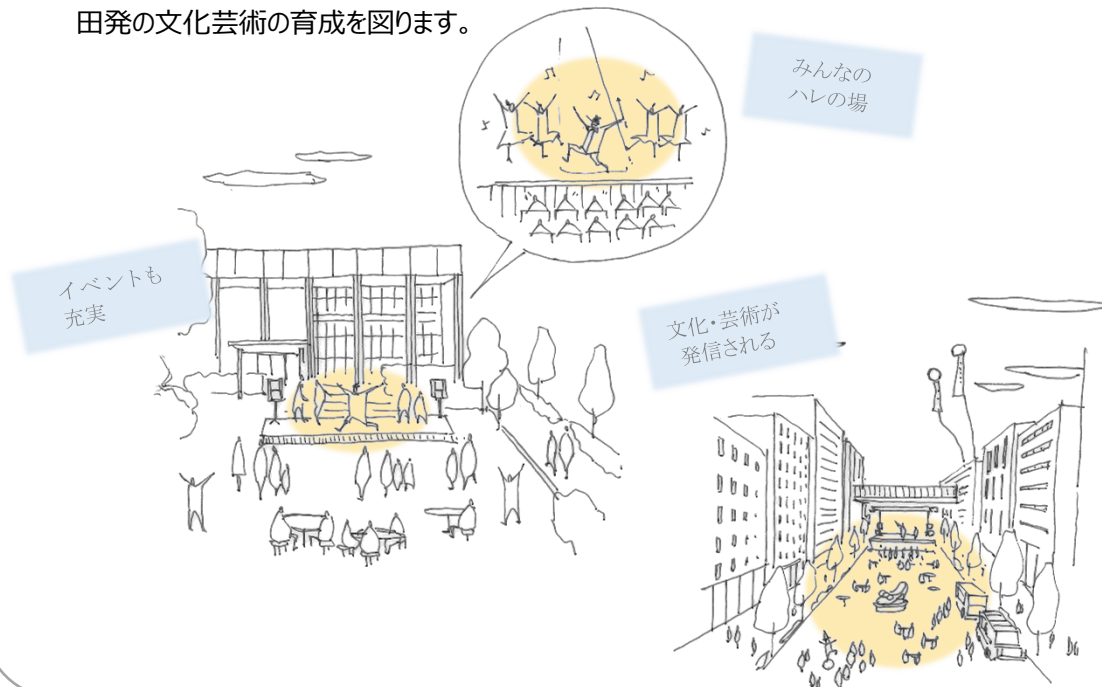
市民の文化向上や福祉の増進等を目的に設置されていますが、一部、集会施設や生涯学習施設などの他機能との機能重複がみられる状況です。ホールは商業利用、一般利用含めて利用率が高い状況ですが、会議室など一部の部屋は比較的利用率が低い状況にあります。施設を有効に活用し、サービスを向上させながら収益性を上げるための検討をしていくことが課題です。

▶ L 文化ホール施設の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆≡

- ・ 民間ノウハウを効果的に取り入れることで、より経営的な管理運営を行うと同時に、より魅力的な付加サービスを提供します。
- ・ 公共施設に限らず文化芸術に関連した他の施設とのネットワークをつくることで、地域との連携強化や町田発の文化芸術の育成を図ります。



■ 今後の方向性

集約

長

PP

活用

集約化により建物の総量を圧縮する一方で、建物の長寿命化や民間ノウハウを効果的に取り入れ、施設の一層の有効活用等により、文化芸術に関する活動の場の維持や活性化を図り市の魅力を向上させる。

- ✓ 民間ノウハウを活かした管理運営により、収益性の向上を図る。
- ✓ 会議室などの利用率の低い機能は、転用等を含めた見直しを行う。
- ✓ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。

～こんな取り組みも始まっています～

まつもと市民芸術館(松本市)

2004年に開館したさまざまな舞台芸術の鑑賞機会を提供するとともに、市民の活発な芸術活動を支援し、多彩な交流等が実現しています。演劇経験の有無にかかわらずオーディションを経たメンバーたちが創作活動を行う演劇学校「まつもと演劇工場」、合唱団もオーケストラも市民でまかなう「まつもと市民オペラ」、さまざまな仕事を市民サポーターが支える「信州・まつもと大歌舞伎」、商店街の協力と市民との協働事業で行われている「まつもと街なか大道芸」など、まつもと芸術館を中心としたさまざまな芸術活動により、市民の交流等が生まれています。

